

領 収 証		平成28年12月10日
亀山春夫 様		
¥ 99,360.-		
税抜金額	消費税	
但し 市議会報告		
上記金額を正に領収いたしました。		
〒327-0307 栃木県佐野市岩崎町1504-1		恩田印刷
TEL 0283-62-1054		
FAX 0283-62-8401		

領 収 書

平成28年8月4日

亀山春夫 議員

金額
(消費税込)

910円

第1回佐野市議会議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。
(平成28年5月15日報告会開催)

佐野市議会報告会運営委員長

飯田 昌弘



※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

亀山春夫市議会報告

誠実・決断力・実行力

発行者 亀山春夫
佐野市船越町 1718-1
TEL 0283-62-3262
平成28年度発行

日頃より地域の皆様には大変お世話になっております。早くも3年半の議会活動で少しずつではありますが、地域のため、佐野市のために積極的に活動しておりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。



平成28年度第3回定例会が、9月2日から9月26日の25日間の議会が開催され、議案74号から106号までの33議案の審議が行なわれました。

主な審議内容

○議案第82号佐野インランドポート建築工事請負契約について
入札参加業者 12社
落札業者 関川町 大幸建設株式会社
落札金額 税込 255,852,000円

○議案第83号大型荷役機械の取得について

入札参加業者 7社 落札業者 吉水町 北関東TCM株式会社佐野営業所
落札金額 税込 60,480,000円・・・他

○決算審査特別委員会審議が行なわれました。

議案第85号平成27年度佐野市一般会計歳入歳出決算の認定についてから議案第97号まで及び議案第98号から106号平成28年度佐野市病院事業会計補正予算(第1号)の審議が行なわれました。いずれも承認可決されました。

亀山春夫は平成28年度総務常任委員会に所属して活動しております。

主な審議内容

○平成28年度佐野市一般会計補正予算(第2号)

○佐野市図書館条例の改正について

○大型荷役機械の取得について

いずれの案件について審議の結果承認されました。

○佐野市税条例の改正について

○佐野市インランドポート建築請負契約について

○損害賠償の額の決定及び和解について

亀山春夫一般質問(要旨)

1. 室の沢橋について(第1回定例会)

平成17年に地元101世帯の住民により室の沢橋についての要望書が提出されているが、この要望書に対する認識とこれまでの対応、また今後の対応はどうか。

(回答) 都市建設部長

室の沢橋は老朽化が進んでおり、改築が必要であると認識しております。

当該橋梁は木橋のため劣化の進行が早く、桁や橋脚などを継続的に修繕しています。平成25年から26年度にかけ災害復旧工事も実施しており、安全に通行出来るよう維持管理に努めています。

今後の対応については、現在、市では老朽化する公共インフラの長寿命化の課題があり、これらを安全に長く利用するための維持管理、更新には莫大な費用と期間を要しますので、市全体の施策の中で調整を図っていきます。

その他の質問

☆高齢者の「生涯活躍」出来るまちづくりについて

☆消化ガス発電について



2. 老老介護について(第2回定例会)

老老介護の疲れから、殺人などの心身を深くむしばまれる事態がおこっている。本市として、対策や支援があるのか。

(回答) 健康医療部長

介護疲れの防止について、まずは地域包括支援センターに相談して頂きたいと思っております。センターでは本人や家族の相談に応じ、介護保険のサービスの利用につなげることで、介護の負担を軽減します。また、介護の悩みや相談に応じる佐野市在宅介護の会を紹介いたします。しかし、介護者自身が精神的に疲れてしまい、

相談できない場合もあります。そういった状況を把握できるのは身近な地域の目であり、地域のなかで孤立しないよう、声を掛け合う関係づくりが必要かと考えています。

※老老介護とは・・・高齢者が高齢者の介護をせざるえない状況のことです。

日本では核家族化が進行していることもあり、老老介護を行なう世帯が年々増加しています。現在、家族が共倒れる危険性や介護疲れによる心中事件もあることから大きな社会問題となっております。

その他の質問

☆田舎暮らしのすすめについて ☆防災対策について

3. 農地バンクについて（第3回定例会）

農地管理機構では、地域集積協力金、経営転換協力金、耕作者集積協力金などがありますが、具体的にはどのような事か。

（回答）産業文化部長

はじめに、地域集積協力金につきましては、地域農用地区内農地の面積の内、一定割合以上を機構に貸し付けた場合に、当該地区に対して支払われるものです。

次に、経営転換協力金ですが、離農などをきっかけに、機構へ農地を貸し付けることにより、担い手への農地の集積や集約に協力してもらう場合に、農地の貸し手に対して支払われるものです。

次に、耕作者集積協力金につきましては、担い手の耕作する農地に隣接する農地を機構へ貸し付けることにより、担い手の農地の集約化に協力してもらう場合に、農地の貸し手に支払われるものです。

その他の質問

☆農家民泊について ☆鳥獣対策について

会派行政視察（稚内市、幌延町）

○28年6月29日（木） 稚内市・「新省エネルギー推進事業」について

「環境都市宣言」のまち、稚内市からとし「人と地球環境にやさしいまち」を目指してとして省エネルギーへの取り組みを推進している。

・平成28年4月「環境」に関わる部局を一元化し、環境水道部を創設し環境エネルギー課としてメガソーラー、風力発電、省エネ、バイオエネルギー等に取り組む。

・平成10年稚内公園内風力発電所運転開始（NEDO・稚内市共同開発）

・平成18年NEDOメガソーラー実証研究・・・平成23年3月稚内市に無償譲渡。

売電料金として約1億4000万円－管理費約4000万円 差し引き約1億円の収入。

・平成25年度稚内市が国から「特定風力集中整備地区」に指定、国が事業の1/2を補助、電力の送電網の整備実証事業開始。

・平成27年度より稚内港湾区域内への洋上風力発電導入検討開始。

・余剰電力から「グリーン水素」を製造、貯蔵、運搬活用に向けた取り組み。

・積雪、寒冷地、強風等、厳しい条件下での太陽光発電システムの運用。

・系統安定化対策技術と出力制御システムの運用。

・平成23年3月をもって実証研究終了し、稚内市に無償譲渡され稼働中です。

※日本の最北端にあり1年中強風が吹いている地域として、厄介な風を20年程前から利用した新たな発想の転換により稚内市の利益を生み出す資源として、積極的に取り組んでおり、今後の発展が期待されます。

今回の稚内市の視察を通じて、佐野市でもこの様な発想の考えて見る機会を得て、新たなまちづくりの参考になりました。

○28年6月30日（金） 幌延町・「深地層研究センター」について

日本原子力研究開発機構により、高レベル放射性廃棄物を安全に地層処分技術に関する研究を幌延町の施設で行なっております。

あくまでも研究施設として場所を提供しているが、研究終了後も核廃棄物を持ち込まないとしており、核サイクル機構と北海道及び幌延町との三者協定を結び放射性廃棄物の最終処分場にはしない。としております。

・日本の地下岩盤は岐阜県瑞浪市の花崗岩（結晶質岩）と幌延町の泥炭（体積岩）の2タイプがありこの2箇所の研究成果で安全に高レベル放射性廃棄物の処分方法が確立される。

・原子力発電所100万KWクラスの原子炉が一基につきガラス固形体にして年間30本の高レベル放射性廃棄物がでる。日本の原子炉が48基で約1400本となり、現在約40,000本になる。

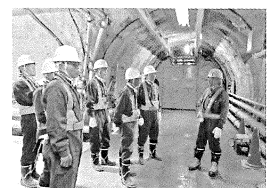
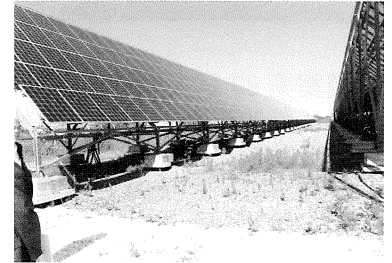
原子炉の運転を止めても高レベル放射性廃棄物が発生するため、必ずしなければならない研究である。

・研究施設は、地下350mで研究が行なわれており、私達は、実際に地下350mまで入れさせて頂き、現地の研究状況を視察させて頂きました。

・地中では、地震による影響が大変少ないということで東日本大震災に於いても揺れは1/6と小さく地上付近より地震による影響は小さいと言うことです。

※今回の視察は日常何も疑問に思わなかった原子力発電について考える機会となりました。

佐野市の市政にも参考となる事例もあり、今後の活動に生かして活きたいと思っております。



今後も地域に密着した諸問題について、市民の立場で検証、提案してまいりますので引き続きご指導宜しくお願い致します。